

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 105人

② 算数 105人

③ 理科 105人

5 留意事項

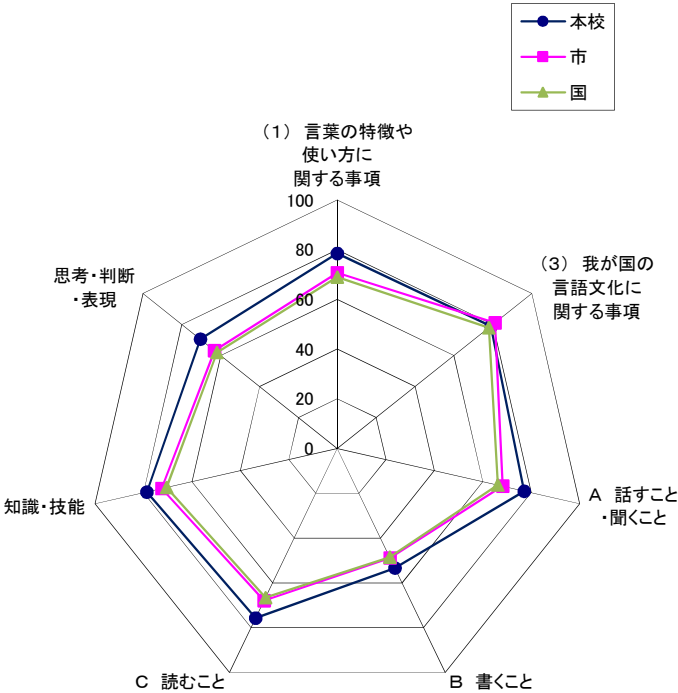
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果の全てを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	78.5	70.7	69.0
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.0	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	77.1	68.2	66.2
	B 書くこと	53.3	48.9	48.5
	C 読むこと	75.7	67.9	66.6
観点	知識・技能	78.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	70.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

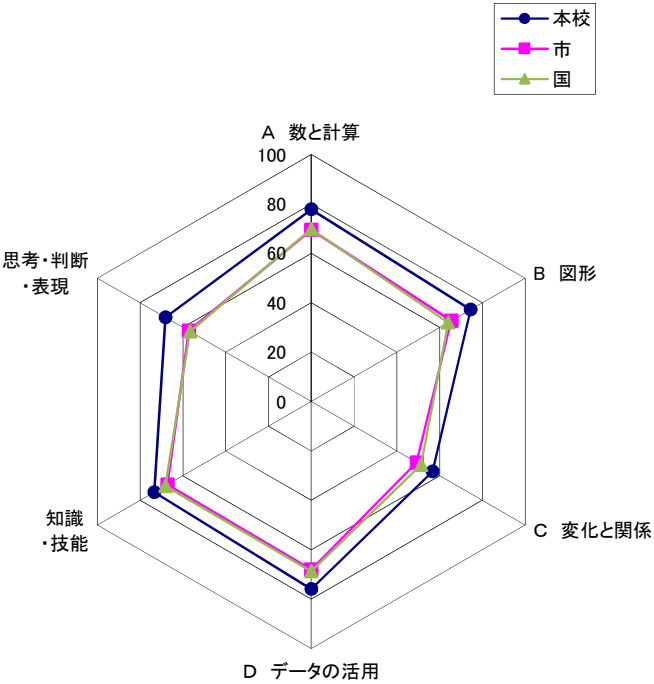
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○円滑に話し合いを進めるための方法や発言の意図を、正しく理解していると考えられる。 ○文中での既習漢字の使い方を理解し、正しく書くことができています。	●話し合いによって意見をまとめたり、司会として進行したりする経験を積めるよう、できるだけ多く話し合いの機会を設ける。 ●新出漢字の読み書きを覚えるだけでなく、様々な使い方を練習したり、普段から既習漢字を使ったりと、能動的に漢字を書けるよう指導する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国の平均より1.1ポイント上回っているが、市の平均より2.1ポイント下回っている。 ●本設問は、同じ内容の2つの文章を見比べて、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを問うものである。本校の正答率は79%であり、どのような書き方が相手に読みやすいかの理解について課題がある。	●普段の授業やノート指導において、字形や配列などを意識できるよう、書写の学習内容と関連付けながら指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問の正答率は92.4%であり、県や全国の正答率を7ポイント以上、上回った。 ●互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えを文章にまとめる設問の正答率は61.9%で、県や全国の正答率を13ポイント以上と大きく上回るものの、誤答の多くが、選んだ立場の持つ問題点に対する解決方法を書く条件が満たせていないという課題が見られる。	●自分の考えを「意見」「根拠とする事実」「事実をどのように解釈したか」といった論理的な文章としてまとめられるよう、書く活動の際には、文の組立てについても指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ●問題文を読んで、その文章のよさについて、自分の考えを書く設問の正答率は全国平均を9.9ポイント上回っているが、正答率は47.6ポイントで50ポイント以下であり、高いとは言えない。また、無回答率も他の設問と比べて高くなっている。	●国語の時間に限らず、様々な授業で振り返りの時間を取り、時間内に自分の考えや思いを書く活動を取り入れる。 ●自分の思いや考えを伝えることができるようにするために語彙力の向上を図る。そのために、読書を推奨したり、分からない言葉を辞書で調べる活動を取り入れる。
C 読むこと	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○どの設問においても、全国の平均正答率より高い。特に登場人物の相互関係について、描写を基に文章を正しく読み取る問題の正答率は84.8%と全国平均を14.2ポイント上回り良好であった。 ●文章を読んで、適切な表現の効果を考える問題の正答率は、68%で全国平均より4.1ポイント高いものの全体の設問の中では低課題である。	●今後も授業の中で、詩や物語、伝記などを読む場を設定し、読み取った内容を自分の言葉で説明したり、自分の生き方や考えたことなどを伝え合ったりする活動を積極的に取り入れていく。また、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、様々な表現が読み手に与える効果を考えたりしながら文章を読み進めることができるよう指導していく。

宇都宮市立今泉学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	77.8	69.5	69.8
	B 図形	74.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	56.7	49.3	51.3
	D データの活用	75.9	68.0	68.7
観点	知識・技能	73.4	67.3	68.2
	思考・判断・表現	68.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

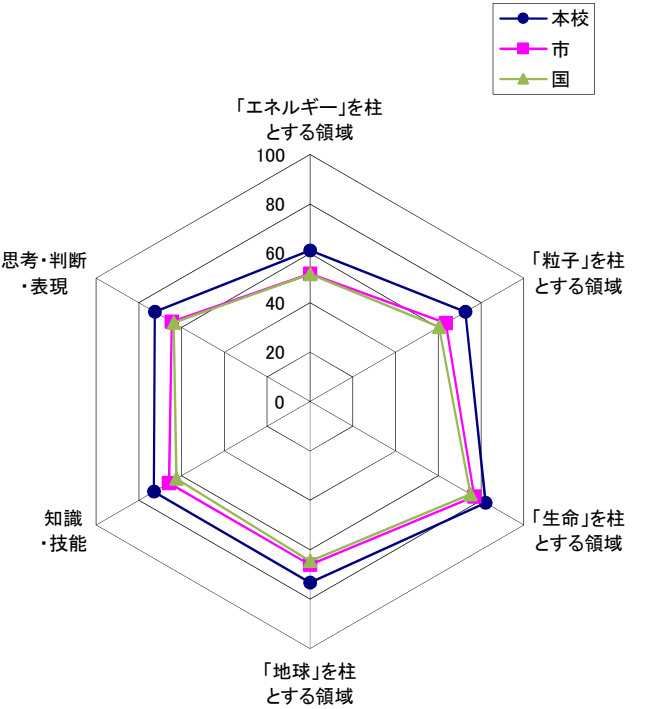
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○四則計算や最小公倍数などの正答率が高く、学習内容の定着が図られていると考える。 ●示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する設問では、本校の正答率は県や全国平均より高いものの、他の設問に比べると差が小さい。考えや解法を記述して答える力に課題が見られる。	・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続したい。また、AIDリルなどを活用することで、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにして、個別最適な学習を目指したい。 ・授業において、課題を解決するための考えを個別に考えさせ、ノートに記述させるなどして、考えや解法を記述して説明する力を伸ばしたい。
B 図形	平均正答率は、市や全国の平均より高い。本設問は、プログラミング的思考を問われる問題であった。 ○正三角形を描くプログラムで、誤っている個所を訂正する設問では、正答率が県を14.2ポイント、全国を15ポイントと大きく上回った。 ●正方形を描くプログラムを平行四辺形を描くプログラムに変更する設問では、正答率が県を7.4ポイント、全国を6.8ポイント上回ったが、他の設問に比べると差が小さい。プログラムで線を描く際の動きのイメージ、外角・内角の区別に課題が見られる。	・紙に作図する場合と異なり、プログラムで線を描く際は、外角か内角かの判断が必要となる。個人用PCを用いて、プログラミングによる作図の指導も行うことで、紙だけでなく多様な作図の方法を身に付けさせたい。
C 変化と関係	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める設問では、正答率が県を11.3ポイント、全国を9.7ポイント上回った。 ●数量が変わっても、割合は変わらないことへの理解を問う設問では、正答率が県を、6.2ポイント、全国を2.4ポイント上回ったが、正答率自体が23.8%と低く、割合についての本質的な理解がなされていないことが課題である。	・割合の本質的な理解を促すために、課題解決をする際に型に当てはめた解法を行わせるのではなく、何のためにどんな手段を用いるのかよく考えさせることで、本質的な理解に迫りたい。 ・今後も、学習活動の中で身の回りの事象と関連付けて考えられるような場を設定し、日常生活と結び付けて割合を活用できるように指導していく。
D データの活用	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○表に分類整理されたデータを基に、提示された条件に合うようにデータを読み取る設問では、正答率が県を14.1ポイント、全国を13.2ポイント上回った。 ●複数の円グラフから目的に合ったものを選択し、必要な情報を読み取る設問では、正答率が県を5.3ポイント、全国を2.7ポイント上回ったが、他の設問に比べると差が小さい。円グラフの読み方に課題がある。	・今後も、学習活動の中で、身の回りの事象について興味・関心や問題意識をもってデータを集めたり、集めたデータを表やグラフに分類整理したりできるような場を設定していきたい。その中で、グラフを正確に扱えるよう指導していく。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	61.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	72.6	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	82.1	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	73.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	73.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	72.6	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○どの設問も県や全国の正答率を大きく上回る。特に、問題に対する実験結果のまとめはどれが適切かを問う設問では、県や全国の平均正答率を12ポイント程度上回っている。 ●実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する設問では、無回答の割合が他の設問より多く、課題が見られた。	・授業で行った実験結果について、自身の予想と比較させ考察をノートにまとめるなど、自分の考えを整理して記述する力を伸ばしたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○どの設問でも、全国の正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●実験結果から水溶液の凍る温度を分析し、考えを記述する設問では、正答率が県を10.6ポイント、全国を12.1ポイント上回っているものの、本校の正答率は51.4%で、高いとは言えない。	・資料や実験結果などを基に分かったことを記述する学習を日常的に行っていき、表現力を向上させていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や全国平均より高い。 ○どの設問も県や全国の正答率を上回る。特に、昆虫について提示された情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを問われる設問では、県や全国の正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、記述し直す設問では、県や全国の正答率を5ポイント以上、上回るものの、無回答率も他の設問より多く、課題が見られた。	・日常の自然現象を普段の学習の中で話題にしたり、植物や動物の飼育に関心をもてるようにしたりすることで、身の回りの自然に対する意識を高めていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や全国平均より高い。 ○どの設問も県や全国の正答率を上回る。特に、夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを選ぶ設問では、全国の正答率を10ポイント以上、上回っている。 ●結果についてまとめた表現が、結果のどの部分を指しているかを選ぶ設問では、県や全国の正答率を5ポイント以上、上回っている。しかし、本校の正答率は52.4%で、高いとは言えない。	・身近に起こる自然現象や大気汚染の問題などを、意図的に話題にし取り上げることで、地球を取り巻く事象に関心が高まるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答率が90.8%で、全国平均を11.5ポイント上回っている。児童は、自分に自信をもって、学校生活を送ることができている。これからも、自己肯定感を高められるように、意図的に場の設定や声掛けを行っていききたい。

○国語に関する質問については、いずれも全国の肯定的回答率を上回っている。特に、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問では、全員が肯定的回答をしている。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、全国の平均を10.5ポイント、「国語の勉強は好きですか」の質問では、全国の平均を8.3ポイント上回っており、児童自身、国語科教育の大切さを感じているのが分かる。今後も、国語科学習の重要性について意識させながら指導をしていきたい。

○理科に関する質問については、いずれも全国の肯定的回答率を上回っている。特に、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」の質問では、全国の平均を12ポイント上回っている。観察や実験から得た結果について、それが正しいのか考えながら授業に取り組んでいることが分かる。今後も、1つの事柄において、様々な見方から考えをもちながら学習に取り組めるよう、指導をしていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、全国の平均を3.4ポイント下回っている。自分の考えが相手に伝わりやすい話し方を身に付けられるよう、話し合い活動や発表する場を意図的に設けていきたい。

●算数に関する質問については、いずれも全国の肯定的回答率を上回っているものの、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問においては、県の平均を1.1ポイント下回った。算数の重要性を理解しているが、内容が難しく感じている児童もいるという結果となった。今後は、一人一人に分かりやすく、児童が自ら学ぶ楽しさを味わえるような学習指導を心がけていきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習意欲を高める 学習課題の設定の工夫	目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返りの時間の確保を含めた、児童が主体的に学ぶ授業の流れ「今泉モデル」にのっとった授業を行う。	児童質問紙調査の結果で「授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいたか。」の質問に対する肯定的回答率は84.3%で、県や全国を約5ポイント上回り、目標を共有し学習活動に臨んでいる様子が伺える。また、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか。」の質問に対する肯定的回答率は85.2%で、県や全国を5ポイント以上上回った。振り返りを行い、次の学習につなげられている様子が伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科でも、自分の考えをもち、その内容を説明する設問での平均正答率の低さが見られた。	授業改善の取組の中で、自分の考えをもちやすくしたり、話し合いをしやすくしたりするための工夫を行い、学びを深めさせていく。	話し合い活動を取り入れる際に、自分の考えをもって話し合いに臨める工夫をする。例えば、これまでの自身の考えの蓄積や既習事項を見返しやすくして、考えを想起しやすくする工夫。話し合うことで自分の考えが補強されていく様子を、色を変えて加筆するなどして視覚的にも捉えやすくする工夫。 また、形成された自分の考えを文章として表現する機会も、意識して設定していく。例えば、課題を解決するための自分の考えや、話し合うことで補強された自分の考え、本時の振り返りなどを文章にまとめる時間を設定していきたい。